

全国助産所分娩基本データ収集システム2015 集計結果報告

システム化プロジェクト委員会 安達久美子, 毛利多恵子, 葛西圭子, 田村千亜希,
今村理恵子, 岡本登美子, 岡本喜代子

I. はじめに

平成25年4月より、全国助産所分娩基本データ収集システムが開始されました。現在のITの利用者は、80.4%です。本システムの入力データは、『助産業務ガイドライン2014年』の発刊に伴って、その内容をガイドラインに準じたものとするため、2015年に若干の改訂が行われました。

本稿では、その改定を踏まえて、2015年1月1日～2015年12月31日までに出産され、入力されたデータを集計、分析を行いましたので報告いたします。

II. 分析方法

2015年1月1日～2015年12月31日までに出産し、全国助産所分娩基本データ収集に登録されたデータは6,946件でした。そのうち、今回は、データの未入力、途中で転送になった者等を除外した4,154件のデータを分析の対象としました。

III. 分析結果

1. 妊産婦の背景

分娩歴からみると、初産婦が828人（19.9%）、経産婦が3,326人（80.1%）という割合でした（図1）。経産婦では、1回経産婦が43.3%と最も多く、次いで2回経産婦が26.6%となっていました。初産婦の平均年齢は28.6（±6.4）歳、経産婦は、33.1（±4.4）歳でした。初産婦では、35歳未満が87.2%で、経産婦では62%でした。

2. 妊娠期について

初診時の妊娠週数は、平均が18週で、20週までが65.3%を占めていました。

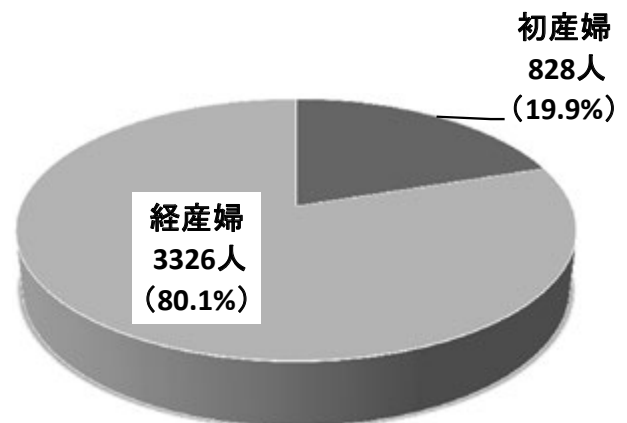


図1 分娩歴

予定日の算出にあたっての根拠は、最終月経のみが23.9%、超音波のみが55%、最終月経と超音波の両方が20.9%でした。

妊娠中の異常については、何らかの異常が認められたのは、初産婦で8.5%、経産婦9.1%、全体で9%でした。異常の項目では、母子感染の危険性が最も多く3.9%でした。母子感染の危険性については、33週以降のGBS検査で陽性であったものが152名で、全体の3.7%となっていました。貧血（Hb9.0/dl未満）は、0.6%でした。

産科的既往については、切迫流早産が3.2%で多く、胎児発育不全が0.17%でした。常位胎盤早期剥離、妊娠高血圧症候群の既往のある妊婦はいませんでした。

3. 分娩期について

分娩場所については、助産所が92.5%、自宅が6.2%、オープンシステム1.4%でした（図2）。初産婦の2.8%、経産婦の7.1%が自宅出産でした。経産婦におけるリピーター（前回も同じ助産所でお産）の割合は、37.8%でした。分娩所要時間の平均は、初産

婦が13時間15分，経産婦が5時間45分でした。初産婦で30時間以上を要したのは4.6%，経産婦で15時間以上を要したのは3.0%でした。分娩時の妊娠週数は，39週が最も多く38.2%，次いで40週が31.2%でした。37週未満が0.4%，42週以降0.1%でした（図3）。

前期破水は，初産婦で14.6%，経産婦で9.3%，全体で10.4%でした。分娩時の平均出血量は，初産婦で368ml，経産婦で345mlでした。分娩時の出血量が500ml以上であったのは，初産婦で21.6%，経産婦で17.7%でした。会陰裂傷は，初産婦では，無40.1%，I度38.0%，II度13.4%，III～IV度0.8%でした。経産婦では，無61.5%，I度26.0%，II度6.0%，III～IV度0.1%でした（表1）。膣壁・頸管裂傷は，初産婦1.3%，経産婦0.4%でした。

分娩時の家族立会い（複数回答）は，夫79.8%，子ども45.8%，実母19.6%，その他9%でした。

4. 新生児について

出生時の児体重の平均は，男児3,153（±353）g，女児3,071（±344）gでした。

出生5分後のアプガースコアは，8点以上が99.6%

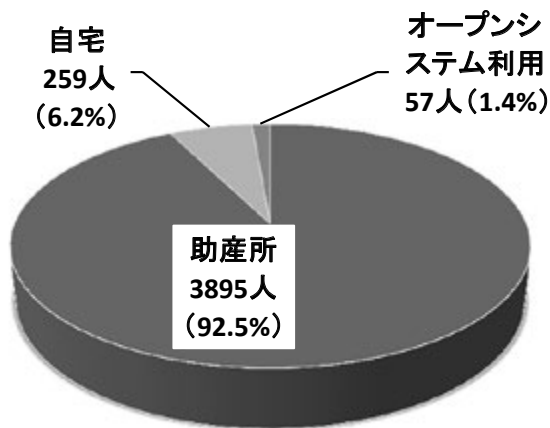


図2 分娩場所

でした。

出生直後の児に異常があったのは，全体の1.3%でした。呼吸障害（多呼吸・陥没呼吸・呻吟・鼻翼呼吸・シーソー呼吸・不規則な呼吸・その他）が最も多く0.7%でした。その他，外表異常が0.3%でしたが，髄膜瘤，鎖肛など緊急手術を要するような児はいませんでした。

5. 栄養方法（図4・5）

退院時の栄養方法は，初産婦で母乳のみが74.5%，混合24.2%，人工乳0.4%，経産婦で母乳のみが81.9%，混合16.8%，人工乳0.4%でした。産後1カ月の時点では，初産婦で母乳のみ79.2%，混合18.8%，人工乳1%，経産婦では，母乳のみ85.4%，混合12%，人工乳0.8%でした。

IV. まとめ

前回（2013年4月～2014年3月）までの3,585件のデータと比較して，大きく変わったところはありませんでした。若干の違いがあったのは，出産予定日算出にあたって超音波を使用している割合が71.6%か

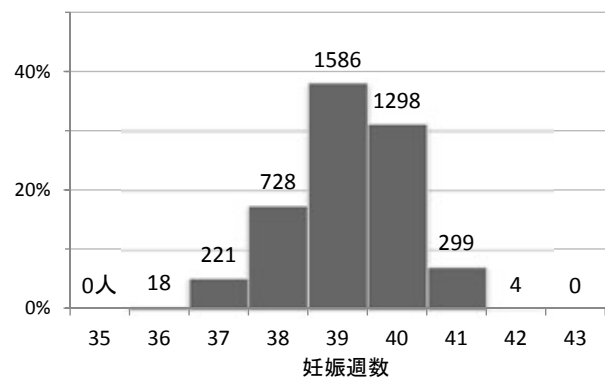


図3 分娩時妊娠週数

表1 産道裂傷

人 (%)

	初産婦	経産婦	全産婦
なし	332 (40.1)	2047 (61.5)	2379 (57.3)
I度会陰裂傷	315 (38.0)	865 (26.0)	1180 (28.4)
II度会陰裂傷	111 (13.4)	201 (6.0)	312 (7.5)
III度会陰裂傷	7 (0.8)	4 (0.1)	11 (0.3)
IV度会陰裂傷	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他(膣壁・頸管)	11 (1.3)	14 (0.4)	25 (0.6)
不明	52 (6.3)	195 (5.9)	247 (5.9)
合計 人	828	3326	4154

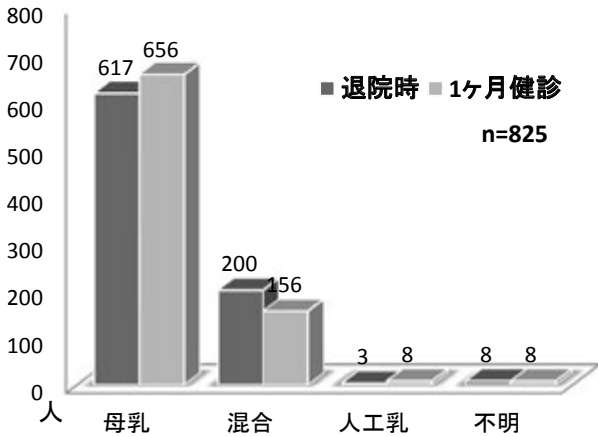


図4 児の栄養方法（初産婦）

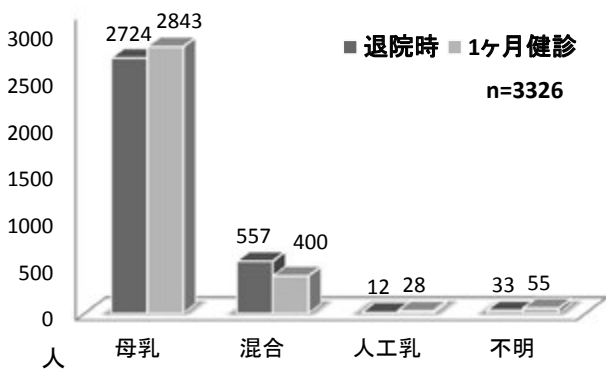


図5 児の栄養方法（経産婦）

ら75.9%と増加したことです。GBSについては、前回（32週以降検査）は2.2%でしたが、今回は3.7%でした。前回の結果同様に、前期破水の割合は、初産婦に高いという結果でした。

2015年に開催されましたICMアジア地域会議において、本システムに関する報告を発表したところ、多くの方々から関心を示していただくことができました。

2015年のシステムの改変に伴って、若干のデータ収集項目に変更があり、全てのデータを一括して分析することができませんでした。現在、助産師会では、今回のデータを瞬時に集計可能なシステムの開発に向けて検討しております。できるだけ速やかに、皆様にご入力いただきましたデータの集計結果をお示しできるよう努力していきたいと思います。助産所の皆様には、今後とも、お手数をおかけしますが、データ入力をお願いいたします。